

寺崎組新聞

第八十号

発行所 寺崎組新聞社

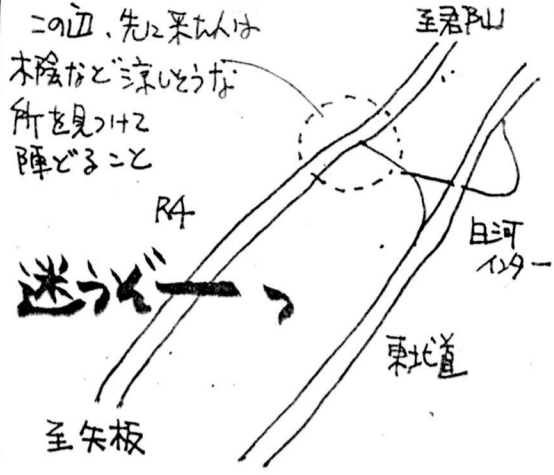
平成十八年度 組会地決定!

参加費 五〇〇〇円
宴 三〇〇〇円

七月二十九日(土)
十二時集合十三時出発
長野県茅野市国道152号線杖突峠



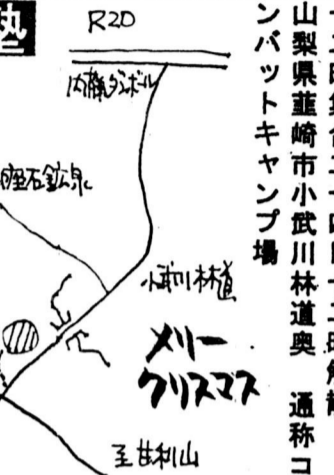
九月十六日(土)
十二時集合十三時出発
福島県白河市東北道白河インター出口付近



十一月四日(土)
十二時集合十三時出発
岐阜県高山市丹生川町国道158号
沿いエコーコープ丹生川駐車場



十二月二十三日(土)
十二時集合二十四日十二時解散
山梨県韮崎市小武川林道奥 通称コ
ンパットキャンプ場



**平成十九年
三月二十四日(土)**
十二時集合十三時出発
静岡県天竜市国道152・473号
線(重複国道)沿い遠鉄ストア駐車
場



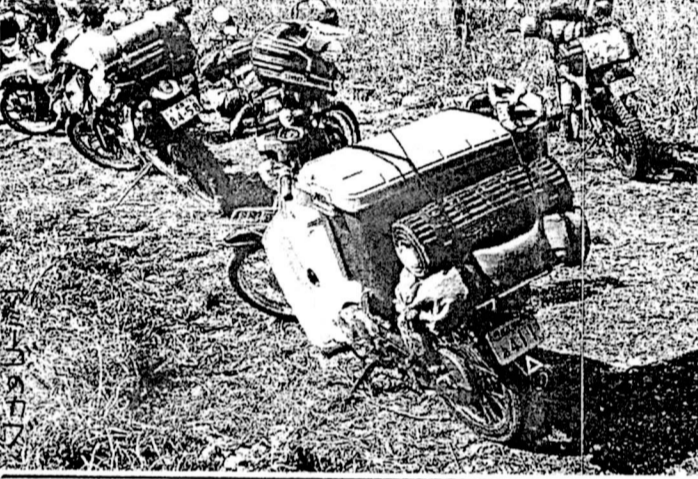
ブエナス デルタス 天竜、 GO GO アミーゴ カブ90!

第一〇九回組会報告

Hola! Como estan senoras? 227号アミーゴ加藤です。愛知県の長久手町より参りました。20代後半は青年海外協力隊の派遣により中米はドミニカ共和国に行っていました。よって組に於ける源氏名がアミーゴと謳われることとなりました。今後ともよろしくお願ひします。

私がスーパーカブC90デラックスを駆り組に参加しているのはですね、我が国はグローバル化といわれながら実はアメリカ的自由競争による経済構造化が進むのに対し、知恵の無い庶民は空虚な価値に踊らされる巨大消費社会の国となつてしまつたのです。アニメーション映画『風の谷のナウシカ』で風の谷のオッサンが云つておりました。

「多すぎる火は何も生みません、そりゃワシらもチョコッと使うが...」この「チョコッと」の加減が重要で難しいですね。無理やりですが以上のことを踏まえて日本の風土に根ざした本物が好きだからです。よって日本のトレールに似合うのは Chevrolet



新自軽

「行かないで」と叫び、カブは走行ラインを選べないので、「次はガレてませんように、ライン上に穴ほこあいてませんように!」と祈り、背後から迫りくるカバ氏の赤い彗星XR650Rの山をも震わすエキゾーストノートの接近には心より「スマンです!」



あ、明日は小武川の組会、さつきまでパッキングしてました。って云うか、すいません俺、組会のレポート依頼されたんですけどもう全然筆が進みません。我が家のPCでは作業が進まない上、Winで作成したテキストファイルが我が家のMacで読めない状況(OS乗せ換えによるトラブル)なので、最後の手段としてマンガ喫茶のPCで自らを缶詰め状態にして執筆します。

ですが、もう何処から書くのかというより殆ど覚えてません。何故ならスーパーカブですから単独のリエゾン区間ではダレてしまい、半分寝ながら走っているようなもので脳みそが考えることを止めてしまつたのでした。組会走行SS区間が始まるとカブも私も目一杯ギョウギョウでして、前を行くピアニカメザシ氏のランツァ2スト臭にヤラシながら、コーナーを抜ける度に車間距離が長くなり

もう全然関係ね〜ことばっか書いてるし集中力切れてきました。薄らいだ記憶をたどり思い出した事といえば、組長は食事を頂くとき大変行儀が良いこと。それから組長から皆に提供された肉じゃがを食した後「じゃが洗ってない、へっへっ」と云われても、汚つたないオッサンがなぜか上品に見えて困つてしまつた。私が落下させたテントを拾つて頂いたり、前夜の宴会にて調子こいて食料が全部ハコるまで食べ尽くし、次の日清そばを赤貧さまに頂いたり、皆様に大変お世話になりました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。

上げると共に、自己責任の意味を改めて確認して次回の組会に参加したいと思ひます。(編集者注記 今回の参加者は次のとおり。組長(エンジン)及びサス交換の調子見がてらゴ三浦(DR250S)、りょうふう(GS80)、赤貧(CRF250)、ゴ三浦(借り物)地下鉄(セロー)、カバ(XR650)、朝比奈(XLRバハ)、牧童(元アベのXR)、地下鉄(KTM LC4IE)、病弱の元(TL125)、メザシ(ランツァ)、アミーゴ(スーパーカブ90デラックス)、以上一一名。今回のコースは、えい、い、わゆる何です、その、赤貧さんが裏のドブの土手で野蒜を取つていた集合場所の天竜の遠鉄ストアから出発してですね、つあ、とそこいらの何だ、山、山中をです、多分通つて、東栄町まで行つたかどうか分らないうちにほとんど車は通らない林道脇の野宿地に到着して宴会やつてですね、早朝に神戸の飲み会に間に合わないって言つて、集合写真も撮らないうちにりょうふうさんが帰つちやうてですね、多分佐久間の方へ下つて解散したらいいんですけど、編集者も良く覚えていないもので、あ、すみません、いろんなこと言つて誤魔化しちゃいますね。そう言えば二日目は連泊組のメザシ君が、信じられないことに秋葉ダム湖畔の国道上でガス欠しまして、編集者がガスの抜きにくいセローからガソリンを分けてやつたけなあ...)



全然レポートになってないですね、お許しください。以上、カブのリアタイヤのリムを曲げた227号・アミーゴ加藤でした。



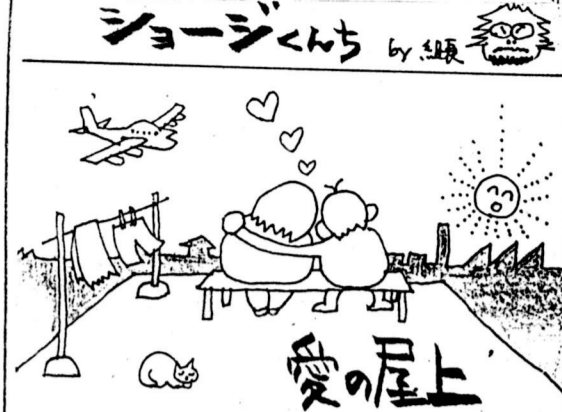
やった、買った、KTM。悔いは悲惨なGW組会報告

第一〇回組会報告

極私的プロローグ
 車載ツーリング装備とヘルメット、ブーツ、ジャケット、パンツは、バイクを購入した埼玉のショップKに送付済み。野宿着にバックパックとショルダーバッグを担ぎ三宮に向かった。八重洲行き夜行バスの出発は23:00。通い始めたブルースパーが閉店したとの噂に、メールでまだ細々と営業していることを確認。友人を誘い既におおつ！ゴムひもだけでしっかりしてはる酔い気分で、震災で半壊状態のバーの古びた木製のドアを期待を込めて押してみた。有名なライブハウスのまん前、いつも会う客は一人だけ。22時過ぎの遅い開店、いつものように煙草をふかしカウンターの向こうにマスター、奥に寝そべる犬がいた。安堵する間もなく、また飲めるさと友を残して生田神社の脇をすり抜け、出発間際のバス乗り場にたどり着いた。残してきた想いはあるけれどこの夜をやり過ぎ、明日目覚めるとやっと思いがれたLC4に会える。



旅の始まり
 中浦和駅を降り20分ほど歩くと、小学校の手前にオレンジ色のバイクが並んでいた。この日のためにリースを途中で抜けて待たせてくれた店主が、店の向かいから軽いEXCを押しながらこちらへやって来た。挨拶を済ませ、店の奥にあった荷を解かせてもらい旅支度を始める。
 「こんなにいっぱい積めるんですね。おつ！ゴムひもだけでしっかりしてますね！」
 と変に感心していただいた。実はゴムひもの長さが気になっていたのだが、ジャストフィット。乗車位置が窮屈な感じだが、旅を続けるうちに馴染んでいくだろうことはわかっていた。さあ行くこう！！いつものジャケット・バッグ、連うのはこのバイク、そして新しいバイクで旅を始める高揚感。
 小武川への道、エンジン音・振動・風・心臓の高鳴り、80GSでの140km/hを100km/hで感じる。ダンポール屋の工場内を突っ切っていくよ林道に突入！！軽い！！フロントが前へへ、ディーブインパクト？雲に乗っているみたいだ。走っていく。コーナーで少しアクセルを開けるとリアタイヤがいつも簡単にスライドしていく(少しですけど)。
 ここでこのバイクを買った理由を少し書いておきます。BMW R80GS basicは最高のツーリングバイクです。そんなのを手離した理由は①オフ車としてはまだ重い
 ②フロントに神経をすり減らす
 ③林道が楽しくない
 ④定番のシャフトドライブ破損、10数万円以上コースお待ちかね
 ⑤これ以上上げると高くつく
 ⑥今ならまだ高く引き取ってもらえる
 次の候補はXR400・DR350。



いつもの野宿宴会
 某コンバットキャンプ場に着くと、組長・赤貧・金子・北脇 朝ウイズ3兄弟・伊藤(兄)・地下鉄・寺崎稔・メザシ・金井の面々がすでに到着(敬称省略させていただきます)。しばらくして新潟からチャリ自走、疲労困憊・阿部も加わり、伊藤(兄)、集めました懐かしの70、80年代Jポップス、フガ飯面ライダーギター伴奏付き。



同じKTM-LC4の640ADV-SXC。LC4-Eを選んだ理由は①軽そう
 ②もっと楽しく林道を走れそう
 ③クロモリフレームは高剛性そう(中学校の頃、そんな自転車に憧れたっけ)
 ④美しいエンジンとスリムなオフ車スタイル(機能美)
 ⑤ミクニキャブの穏やかさ
 ⑥組長が 選んだバイクである。

金子・メザシの恒例バトルにも火花が散り、金子の「結局押しがよえーんだよ」には、めげないメザシも赤貧まっ青の宇宙語で「パピペペ、ペポパ...」5度目の「永久除名!!」の声も高らかに小武川の夜は更けていくのでした。
 2日目の朝、初めて大都会の住人となる元富山県民・寺崎稔は渋滞を心配し早々の出発。入れ替わりに、着くなり駄洒落一発森下・カブ・アルミリム別注アミーゴ加藤・野宿初体験ハヤト君も来ました。平林・今回コーギーのハッピーちゃんはお留守番ゴミ浦・歌います歌えます百キロ齋藤・新聞代は手渡しでまたトンボ掃りでF.M.佐藤の6名が加わった。
 赤貧私設コースでゴルフ三昧敬老会、子供たちもお気に入り。パンク修理実習を拒むランツァのタイヤにペグをグリグリ地下鉄・阿部。優しい森下。昼寝は久しぶりりようふうなどなど。時間は緩やかに過ぎていく。そして焚き火と酒が皆の顔を赤く染める夜(だけではないけど)。伊藤(兄)が掃り懐かしの歌謡曲はもうないのかと思いきや、誘う誘う、出てくる出てくる百キロ齋藤、懐かしのメロディ!!



5月7日夜半から降り出した雨もあがり、上々の朝。三々五々帰っていき残し、さあ出発。初めてのLC4-E雨中高速走行は散々たるありさま。長時間の雨中走行みえみえなのに悪かにもなんの準備もせず、カメラ・携帯・MP3プレーヤーの初水没、それに加えて初ガス欠(涙)。もう私には組員を名乗る資格がございませぬ!! 自ら第1回目「永久除名」とさせていただきます。あな恥ずかしや。そんな旅だったけれど、お世話になった人達に、神戸に無事着いたことに感謝。バイクをしばらくガランとしていたいつもの場所に納め、笑顔で迎えてくれる家族に感謝。
 216号 りようふう記

酔っぱらい金子の 厳冬北海道旅行日記 第十一回

1.6 帯広
 予想通り、マイナス18℃の橋の下。フライの向こうでダイヤモンドダストが光を放っている。決してきれいとは言えぬ街外れの河原に張ったテントの中、野宿者二人で見るダイヤモンドダスト。美しくはあるが、ロマンチックで無いことは間違いない。凍り付くような風の中、まずは観光所、幸福駅跡へ。気動車や小型の除雪車が、切られてしまったレールの上にボツンとたたずんでいる。それでも「汽車」を眼の前にするのを忘れてしまおうのは、かつての鉄道少年の悲しい性であるか。
 だだっ広い大地を突っ切る道道294で国道に戻り、日勝峠越えに挑む。正月休み明けの大型トラックがガンガン行き交い、神経をすり減らす。ヘロヘロになって日高に入り、平取へ。いつものように買い出し・給油を済ませ、沙流川の河原でこの旅最後の一夜を迎える。
 M氏は苦小牧のビジネスホテルに向かった。二人で旅を続けていても、それぞれのペースを崩さないのが我々のやり方である。だからこそ十年近くの間、年越しといえは寒空の下、一緒に飲んだくれていたのである。そろそろ冷え込んできた。20時頃から、あられ状の雪がフライを激しく叩き始める。
 1.7 平取
 テントを畳んでいる間に天候が回復してきた。しかし猛烈な横風は相変わらずだ。道内の道端でよく見かける「交通安全」の小旗が、今にも引きちぎられそうだと、とも真っ直ぐには走れない。
 海沿いのR235に入り、今度はアスファルトの轍に溜まった粉塵混じりの泥水に悩まされる。疾走する海コントレーラーに抜かれるたびに何も見えなくなる。小生もハンターカブも泥だらけになりながら、ようやく苦小牧のフェリーターミナルに辿り着いた。チェックアウト間際まで爆睡していたというM氏と再会し、ハンターカブとの旅は幕を下ろした。
 ハンターカブと全ての精力をフェリーターミナルに置き去りにし、パジェロの助手席に転がり込む。強風も泥水もともせず、パジェロは一路、登別を目指す。
 到着したのは某有名温泉ホテルが誇る、オープンしたばかりの新館大

浴場。入浴料2000円也を、飛び出しそうになった目玉を押さえながら支払い、いざ一ツ風呂。とにかくデカい。風呂場の中で迷子になりそうだが地べたから湧きだして来るんかい。2時間ばかりくつろぎまくり、ついでに命の水も頂く。
 すっかり肺抜けになってパジェロに乗り込むが、小生と同一行動をとっていたM氏のハンドル捌きが少々心配ではある。オフロ峠を越え、R230・R276を東へ辿り次ぐ。あまりに自堕落な二人に天罰が下ったのか、日没と同時に猛烈な吹雪に襲われた。IPFの2モードドライブランプも全く歯が立たない。照らし出されるのは真横に飛んで行く雪ばかり。普段は気にも留めぬ「こがカブだぞ!!」の道路標識の有り難みを感じ知らされる。ハンターカブでこんな状態に陥ったら、間違いない死にそう。
 20時過ぎ、やっと思いで支笏湖に出る。湖岸の道を走っている時だった。何でも無い直線路で4本のスパイクタイヤが突然グリップを失い、パジエロ君はそのまま一回転半。叫び声を上げる他、為す術の無い小生。逆方向を向き、路肩の雪にリヤをぶつけて停止した。これまで直線路の路肩に刺さっている車を不可解に思っていたが、その謎が身をもって解けた。「あ、怖かった」スタックしなかったのが幸いだ。
 ビビりまくったまま苦小牧に戻り、夕飯・給油・洗車を済ませる。日付が変わった頃、ブルーハイウェイライン「おあらい丸」にて北海道に別れを告げたのであった。
 1.9 我が家
 群馬の借家に帰り着き、旅支度を解いていると見覚えのない品が出てきた。日本酒の五合瓶と一通の手紙である。フェリーターミナルで小生を見かけた方からの、激励の品のような。フェリーの乗客か、それとも地元のパイク乗りだろうか。暖かな心遣いを頂いた、名も顔も知らぬ人に、そしてこの旅を支えてくれた、数知れぬ人々に感謝!!

編集後記
 読んでくださる皆様、引き続きありがとうございます。地下雨の間にマシマシ。帰るかなあ。酔金ひびきのウイスキーも残ってます。ゴメンバイクにはオーケストラが必死です。ミル東京に単身ふんにて来ますよ。元々なんでもございR25組長宅へモリタ何にもない、ななこスマセン組長。今後TR200が4台になるか